

将来像

「ここでいい」から「ここがいい」へ

人のつながりと四季の恵みで幸せな未来を創るまち なよろ

重点プロジェクト2

学びで人が集まるまちプロジェクト

- ・生涯を通じて、自分の可能性を切り拓いていく学びを支援します
- ・本市の特色を活かした教育等に取り組むとともに、世界と地域をつなぐ人材を育て、人が集まり、人が育つ、好循環を生み出すまちを目指します

【基本計画Ⅴ－2】

義務教育の充実

目指す姿

すべてのこどもたちの可能性を引き出し、キラキラと輝く生きる力を育む
名寄の特色を活かした学校教育の実現を目指します

基本的な方向性

※余白：教育の質の向上のための時間的余裕

- ・**教育の質の向上**…社会の変化や地域の特色を反映し、「余白」※を創出した柔軟な教育課程を通じて、すべてのこどもの可能性を引き出します
- ・**誰一人取り残さない支援**…小中学校間の切れ目のない支援、障がいのあるこどもの学びの場や教育課程、個々のニーズに応じた受皿を充実します
- ・**学校・地域・関係機関の連携**…教育の質の向上のため学校と地域が相互に支え合う教育体制を構築するとともに、教育相談体制充実のため教育相談センターを拠点に関係機関等との連携を進めます
- ・**持続可能でより良い教育環境の実現**…安全・安心な学習・生活環境を確保するとともに、中長期的な視点から小中学校の望ましい規模・配置等を検討します

主な施策・取組

1 キラキラ生きる力を 育てる教育の推進

多様なこどもたちを包摂する
柔軟な教育課程
主体的・対話的で深い学び

2 地域とともにある 学校づくりの推進

学校と地域がパートナーとして
連携・協働
地域の特色を活かした学校づくり

3 社会の変化や多様な 教育ニーズへの対応

多様なこども一人ひとりに
寄り添う支援体制
ICT・外国語教育・部活動改革

4 安全・安心で豊かな 教育環境の整備

安全・安心で快適な
学習・生活環境の確保
魅力ある学校のあり方等を検討

学校の小規模化や施設の老朽化といった現状を踏まえ、次代を見据えた教育環境の整備や地域の実情に応じた魅力ある学校のあり方等について検討します

「名寄市総合計画（第3次）基本構想・基本計画（素案）（令和8年7月）より、「学校教育」に関連する事項等のみ抜粋

2

将来像

《総合計画の役割》

- ①各施策分野における政策および事業の根拠
- ②名寄市を運営していくための総合指針
- ③市民のまちづくりの共通目標

■計画期間

令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	令和12年度 (2030)	令和13年度 (2031)	令和14年度 (2032)	令和15年度 (2033)	令和16年度 (2034)
基本構想(8年間)							
前期基本計画(4年間)				後期基本計画(4年間)			
前期実施計画(4年間) (1年ごとにローリング)				後期実施計画(4年間) (1年ごとにローリング)			

【基本構想】市が目指す都市像とまちづくりの基本方針

社会経済情勢の動向を展望しながら、長期的な視点で本市が目指す都市像を明らかにするとともに、「まちづくりの目標」を定め、その目標の実現に向けた基本的な方針を示します。

【基本計画】目指す都市像を実現するための基本的な施策

社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため中期的に具体的な施策を定めるとともに、基本構想に掲げる各分野の基本的な方針に基づく必要な施策を分野ごとに具体的に示します。

さらに、人口減少や少子高齢化などへ対応するために、計画期間中に重点的に取り組む施策を設定します。

【実施計画】基本計画を推進するための具体的な事業

基本計画で示した分野ごとの施策を具現化するため、施策の体系ごとに必要とされる事務事業を定め、短期間で必要な見直しを行います。

基本構想

基本計画

実施計画

【将来像】

「ここでいい」から「ここがいい」へ
人のつながりと四季の恵みで幸せな未来を創るまち なよろ

《将来像に込めた想い》

この将来像には、本市で暮らすことを「消極的な選択」ではなく、愛着と誇りを持って選ばれるまちにしていきたいという想いを込めています。

子育て、進学や就職、仕事の転機、老後など、人生の節目において「名寄にいたい」「名寄を選びたい」「名寄に戻りたい」と思ってもらえるよう、日々の暮らしの中で“このまちに住み続けたい”、“住んでよかった”と実感できるまちを目指します。

名寄の魅力は、四季の移ろいとともにある豊かな自然と、人の営みが織りなす風景にあります。

農地がまちの近くに広がり、作物の成長や季節の変化を身近に感じることができる環境は、名寄ならではの大きな財産です。

こうした自然は、ただ眺めるだけではなく、暮らしや産業、学びや健康に活かすことのできる地域の資源です。

四季の魅力や農と食、雪や寒さを楽しみに変える「利雪親雪」のまちづくりなど、培ってきた知恵を価値へと高めながら環境と調和したまちづくりを進め、地域の活力と暮らしの豊かさにつなげていきます。

そして、幸せな未来を拓く原動力は「人と人」のつながりです。

地域の中で声を掛け合い、支え合いながら、新たにこのまちで暮らし始めた人も含めて地域の輪を広げていくことが、持続可能なまちづくりにつながります。

市民、企業、団体、教育機関、行政など多様な担い手がつながり、自然に寄り添い、培ってきた知恵や経験を次の世代へとつなぎ、その積み重ねによって、「ここでいい」ではなく「ここがいい」と実感できる名寄の幸せな未来を、みんなで創り上げていきます。

【重点プロジェクト2】

学びで人が集まるまちプロジェクト

目指す姿

生涯を通じて、自分の可能性を切り拓いていく学びを支援します。

本市の特色を活かした教育やスポーツ活動を契機とし、これらの取組を活性化するとともに、世界と地域をつなぐ人材を育て、人が集まり、人が育つ、好循環を生み出すまちを目指します。

主な施策・取組

(1)こどもの成長を切れ目なく支える学びの基盤づくり

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。

豊かな自然に育まれた地域の特性を活かし、主体的に伸び伸びと成長できる幼児教育を推進します。

また、幼児期から多様な言語や文化、スポーツに触れ合う機会を創出するとともに、豊かな経験が義務教育などの体系的な学びへと切れ目なく接続できる取組を推進します。

(2)地域に誇りを持ちグローバルな視点に立ったキャリア形成

小中学校では、名寄に愛着と誇りを持ち、グローバルな視点をもって未来を切り拓く「キラキラ生きる子ども」の育成を図ります。

英語教育等を通じて、変化の激しい社会をよりよく生き抜く力を育みます。

地域や異文化への理解を深め、英語で自分自身や地域を紹介できる力を養うとともに、まちへの愛着と誇りを一層育みます。

また、ALTの活用により生きた英語に触れる機会を拡充するなど、世界と地域をつなぎ、多様な人々と対話できる世界に通用するコミュニケーション能力等を育成します。

※小中学校：小中学校には、義務教育学校（前期課程および後期課程）を含みます。

(3)小中高大連携による学びの循環と若者の地域定着

名寄高校が、こどもたちから「ここで学びたい」と選ばれる魅力ある学校となるよう、地域と連携した情報発信や各種支援の充実を図ります。

また、小中学校、高等学校、大学が連携し、地域の課題や可能性に触れながら主体的に学びを深める機会を創出するとともに、高校生が名寄市立大学の教育研究資源に触れ、自らの関心や探究を発展させる機会の充実を図ります。

名寄市立大学については、公立大学法人としての中期目標の達成に向けた取組を支援するとともに、施設設備の計画的な整備を進めることで、教育研究環境の充実と地域に開かれた知のプラ

ットフォームとしての機能強化を図ります。

これらの取組を通じて、小中高大と地域が連携した学びの環境を構築し、専門性に加え、生きる力や学び続ける力を育みます。

また、地域の知が相互に循環する仕組みを形成することにより、若者が地域とのつながりを持ち続け、将来的に地域社会を支える担い手として活躍する好循環の創出を目指します。

(4)スポーツと健康を活かした成長・交流・地域の魅力づくり

こどもや若者が発達段階に応じて、スポーツに継続的に親しめる環境を整え、学校や地域クラブ、スポーツ団体と連携しながら、挑戦する力、協働する力、自己肯定感を育みます。

あわせて、健康づくりの推進とも結び付け、心身ともに健やかに成長できる環境を整えることで、こどもたちの豊かな学びと暮らしを支えます。

また、スポーツを活かした地域の魅力向上を進めることで、学びと交流の舞台を地域全体へ広げていきます。

スポーツ合宿や大会、交流事業は、こどもや若者にとって外の世界とつながる機会になるとともに、名寄の魅力を発信する力にもなります。

スポーツを「する」「見る」「支える」環境を地域ぐるみで育てることで、健康づくり、青少年健全育成、交流人口の拡大を一体的に進める名寄らしいプロジェクトを目指します。

(5)人生の充実とつながりを育む場の活性化

社会教育においては、自ら学ぶ意識の醸成とその支援を軸に活性化を図ります。

市民講座に限らず、サークル活動や地域コミュニティなど、人が集う場所を社会教育の場として活用し、学びを通じて人生の充実とつながりの活性化を目指し、ウェルビーイングの実現に取り組みます。

家庭教育においては、保護者への様々な情報の提供と社会的な支援体制の連携により、つながりの強化を図り、教育の出発点である家庭教育の充実を目指します。

主な基本計画事業

主要施策	主な施策・取組
I -4 交流活動の推進	(2) 国際交流の推進
	(4) 外国人支援と市民交流の推進
II -1 健康の保持増進	(1) 健康づくりの推進
II -3 子育て支援の推進	(1) 保育環境の整備と提供体制の確保
	(3) こども・子育て支援の充実
IV-4 雇用の安定	(1) 雇用の安定と確保
V-1 幼児教育の充実	(1) 質の高い幼児教育の提供

主要施策	主な施策・取組
V-2 義務教育の充実	(1) キラキラ生きる力を育てる教育の推進
	(2) 地域とともにある学校づくりの推進
	(3) 社会の変化や多様な教育ニーズへの対応
	(4) 安全・安心で豊かな教育環境の整備
V-3 高校支援の充実	(1) 高校の魅力向上と生徒確保に向けた支援
V-4 大学支援の充実	(1) 教育研究等の質の向上
	(2) 業務の効率化および財政運営ならびに自己点検・自己評価・情報公開のさらなる進展
	(3) 教育研究環境の整備
V-5 生涯学習の推進	(1) 家庭教育の支援
	(2) 青少年健全育成活動の充実
	(3) ライフスタイルに応じた学びへの支援
	(4) 多様な学びやつながりの機会の提供
V-6 社会教育の充実	(2) 社会教育人材の養成・活躍機会の拡充
	(4) 地域課題に対応した学びの推進
V-8 日常のスポーツ文化と健康づくりの推進	(2) こども・若者のスポーツ機会の確保と成長支援
	(4) スポーツを活かした地域の魅力向上・交流促進



目指す姿

すべてのこどもたちの可能性を引き出し、キラキラと輝く生きる力を育む名寄の特色を活かした学校教育の実現を目指します。

現状と課題

教育内容の面では、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善とより良い生活・運動習慣の定着を車の両輪として位置付け、名寄市教育改善プロジェクト委員会が中心となり、市内の小中学校が一体となった学力向上、体力向上および特別支援教育の充実を図る取組を推進してきました。

また、こどもたちを取り巻く環境が多様化するとともに、一人ひとりが抱える問題も複雑化していることから、児童生徒の不登校の増加が課題となっており、教育支援センターおよび校内教育支援センターの整備を通して、不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立に向けた支援を行ってきました。

教育環境の面では、安全・安心で快適な教育環境を整備するため、智恵文小学校および智恵文中学校を義務教育学校として整備を行ったほか、名寄中学校の改築工事および旧名寄産業高校光凌キャンパスを名寄東中学校として活用するための改修工事を行い、市内の全小中学校の耐震化を図りました。

また、小中学校のエアコン設置は令和7年度、小中学校のトイレの洋式化は令和8年度に完了しました。今後も義務教育の動向、こどもたちや学校現場の実態、保護者や地域のニーズ等を踏まえ、多様化する教育ニーズやデジタル化の進展といった社会情勢の変化に対応しながら、質の高い魅力ある学校づくりを推進する必要があります。

基本的な方向性

すべてのこどもたちの可能性を引き出し輝かせるため、社会の変化や地域の特色を反映し余白の創出を工夫した、多様なこどもたちを包摂する柔軟な教育課程により、教育の質の向上を図ります。

また、その実現に向け、学校と地域が相互に支え合う教育体制の構築を推進します。

多様なこどもたちが誰一人取り残されない、小中学校間の切れ目のない支援の充実に向けて、障がいのあるこどもの学びの場や教育課程の充実を図ります。

また、多様な個性や特性、背景を有するこどもたちが意欲を持って学ぶことができるよう、個々のニーズに応じた受皿の整備について検討するとともに、教育相談センターを拠点に関係機関等と連携を図りながら、教育相談体制の充実を図ります。

あわせて、急速に変化する社会や複雑化する今日的な教育課題に適切に対応し、質の高い学びを保

障する体制づくりを推進します。

学校教育の基盤である施設・設備については、持続可能かつ安全・安心な学習・生活環境の確保を最優先とし、計画的な修繕等を推進します。

また、より良い教育環境の実現を図るため、中長期的な視点から小中学校の望ましい規模、配置等について検討します。

※余白：教育の質の向上のための時間的余裕

主な施策・取組

(1) キラキラ生きる力を育てる教育の推進

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心に、各学校において多様なこどもたちを包摂する柔軟な教育課程を編成・実施し、教育の質の向上を図るとともに、デジタル学習基盤と特別支援教育を土台として、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進します。

(2) 地域とともにある学校づくりの推進

学校と地域がパートナーとして連携・協働しながら、コミュニティ・スクールの枠組みを活かし、学校情報の積極的な公開や地域との双方向の対話を促進するとともに、地域の特色を活かした学校づくりを推進するなど、地域全体でこどもを育む体制の充実を図ります。

(3) 社会の変化や多様な教育ニーズへの対応

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職を配置するとともに、教育相談センターや校内教育支援センターの改善・充実を図ることにより、不登校やいじめ、発達特性など、多様なこども一人ひとりに寄り添う支援体制の充実を図ります。

ICTの活用や外国語教育の充実、部活動改革の推進など、様々な今日的な教育課題に対し、市内の小中学校と教育関係機関・団体が一体となって課題解決に取り組み、国際社会で通用する資質・能力を育む質の高い教育を推進します。

(4) 安全・安心で豊かな教育環境の整備

こどもたちが健やかに学べる環境を維持するため、施設の経年劣化を適切に把握し、計画的な予防保全に努めることで、安全・安心で快適な学習・生活環境の確保を図ります。

学校の小規模化や施設の老朽化といった現状を踏まえ、次代を見据えた教育環境の整備や地域の実情に応じた魅力ある学校のあり方等について検討します。